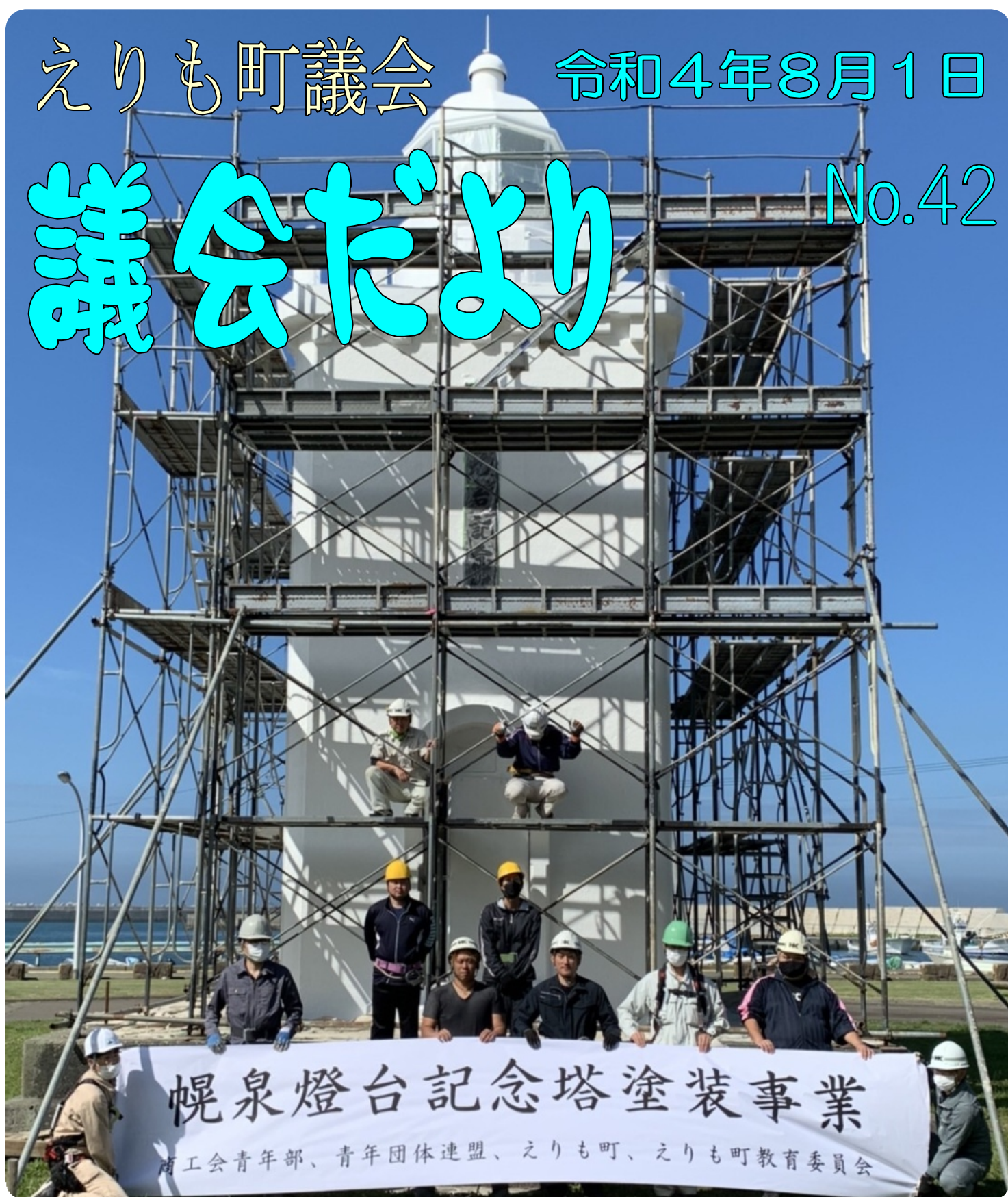


議会だより

No.42



幌泉燈台記念塔塗装事業

商工会青年部、青年団体連盟、えりも町、えりも町教育委員会

P 2 令和4年度6月定例会
補正予算・条例改正 ほか

P 3～7 一般質問
一般質問 5名 10件

P 8～9 行政視察・全道研修
浜中町「ウニ生産の現状」
札幌市「全道議員研修」
千歳市「防災学習交流センター」

林業活性化議員連盟植樹
町村議会議長会
自治功労者表彰

P 1 0 所管事務調査

P 1 1 全員協議会

P 1 2 この人に聞く
地域おこし協力隊 宗田 光一さん



えりも町議会第2回定例会

補正予算

◎令和3年度

一般会計(歳出)

・財政調整基金積立金

3億7747万円

ふるさと納税寄付金の一部を積立

診療所特別会計

(歳出)

・一般管理費

754万5千円

医師の紹介手数料

◎令和4年度

一般会計(歳出)

・特殊詐欺対策アダプタ取付補助金

497万5千円

特殊詐欺による被害を未然に防止するため70歳以上世帯の電話機に機器等を取り付ける費用

町民全員に

一人1万円の

「えりも町応援券」を配布

・えりも町応援商品券事業補助金

4600万円

物価高騰等により負担が増加している家計への支援と町内での消費喚起を図るため町民一人につき1万円の「えりも町応援券」を配布

・原油価格・物価高騰等総合緊急対策事業補助金

農業振興費

280万円

林業振興費

10万円

水産業振興費

2067万円

商工振興費

1297万円

原油価格・物価高騰等により影響を受けている事業者を支援するための補助金

・えりも中学校グラウンド改修工事

9920万円

えりも中学校のグラウンド改修工事に係る工事請負費

条例改正

えりも町国民健康

保険税条例の改正

課税限度額の改正

①基礎課税額分

63万円 ↓ 65万円

②後期高齢者支援金等課税額分

19万円 ↓ 20万円

※介護納付金課税額分は改正なし

税率の改正(一部抜粋)

①基礎課税額分

所得割 9.0% ↓ 8.4%

②後期高齢者支援金等課税額分

所得割 2.0% ↓ 2.6%

所得割 2.0% ↓ 2.6%

人事

・人権擁護委員の推薦

えりも町字本町

嵯峨 直樹(59歳)

新任

えりも町字歌別

高橋 良司(69歳)

新任

表紙の説明 幌泉燈台記念塔を塗装

7月1日から3日間、えりも町商工会青年部を主体に青年団体連盟会員、役場職員も加わり、塗装作業が行われました。

同青年部では「えりもの灯台まつり」の出店売上を地域に還元するため平成23年、27年に実施し、今回が3回目となります。

今年度こそ、各種イベントが行われることを願いながら、参加者たちは作業に汗を流しました。

一般質問

一般質問は、議員にとって、住民から重大な関心と期待を持たれる大事な議員活動の場です。町政全般にわたって執行機関に疑問点をただし、所信の表明を求め、議員自らの政策提言を行い政治姿勢を明らかにするものです。

問 うに祭りに代わるイベントの開催を



上野陽司議員

答 春のイベント、漁協と協議・検討する

問 上野 議員

答 産業振興課長

うに祭りは、昨年、一昨年とコロナ禍により中止、今年は赤潮によりウニが壊滅状態で中止となった。ウニ資源が回復するまで順調にいつても4〜5年かかると言われており、うに祭りにウニが提供できるようになるまでには、それ以上の年月がかかると思われる。このような状況では、うに祭りの開催は見通しが立たない。

町では、令和4年度から4年間、放流するウニ種苗の購入費に対して助成を行い、1日でも早い資源の回復を図っているが、赤潮前の資源量まで戻すには更に長い年月が必要であり、今年度放流したウニ種苗が漁獲対象となるまで、うに祭りの再開は困難と考えている。町には、春に様々な魚種の漁獲があるが、ウニの集客力は非常に強いと感じており、他の魚種で春のイベントを開催することは可能であると考えるが、これから漁協と協議・検討したい。

再 上野 議員

イベントを開催

答 町長

うに祭りは、ウニ部会と漁協で主催したことから始まり、ここまです内はもちろん、全国からも集客があり、漁業者に大変感謝している。赤潮によりウニに大きな被害が出たため、何年もこの春のお祭りができないとなれば、夏と秋だけになるため、春に開催できるよう漁協と協議をしていきたい。

えりもの三大まつり



来年以降、春のイベント開催はどうか。なる（写真：2020年のうに祭り）



夏の「えりもの灯台まつり」は、8月14日、一日日程で開催される



秋の「海と山の幸フェスティバル」今年は開催の方向



中野公浩議員

医療費助成 高校生まで拡大を

問

問 中野議員

町で実施の医療費支
援事業での子育て応援
券支給は、3か月以内
に領収書を役場に持参
すると子育て応援券が

答 制度導入に向け検討する

答 保健福祉課長

支給される。
また、同制度の存在
を知らない人もいる。
道内では乳幼児医療
カードに上乘せする形
で高校生までの医療費
を全額助成する町が増
えている。
当町も手続きの簡素
化のため、同様の方式
で全額助成を高校生ま
で拡大できないか。

子育て応援券支給は、
平成25年度から実施し、
今年度末で10年が経過
する。

北海道が助成する乳
幼児医療カードの対象
は「小学校入学前の入
院及び入院外、小学校
での入院」とし、かつ
一定の所得基準を設け
ている。

当町の子育て応援券
は同カードの対象外と
なる所得基準を超える
世帯、さらに「小学校
での入院外、中学校で
の入院及び入院外」ま

で対象を拡大している。
この制度を高校生ま
で拡大した場合、町単
独事業としての費用負
担の検証、応援券方式
を医療カード方式へ統
一する場合、これまで
の応援券による町内
での消費効果の検証など
も必要と考える。
一方、手続きや事務
の簡素化、医療機関窓
口での支払い負担軽減
が期待できることもあ
り、今後制度導入に向
け前向きに検討する。



中学生まで対象になっ
ている現在の子育て
券

問 中野議員

高齡者宅の除雪支援を

問

高齡者、特にひとり
暮らしの方は、冬期間、
除雪作業に非常に苦労
している。
支援案として
①自治会で行う。
②除雪業者に作業を
追加してもらおう。

答 どのような取り組みが必要か検討

答

答 保健福祉課長

③ボランティアを募
集し支援してもらおう。
④地域おこし協力隊
の仕事として支援して
もらう。
町は、高齡者等の要
望があれば、これらの
除雪支援を行ってほ
うか。

町としても高齡者世
帯、特に独居世帯の除
雪支援については、従
前より大きな課題の一
つとして考えている。
①「自助・共助」の
在り方にもよるが、場
合によっては自主防災
組織の中で検討される
ものも考える。
②町道の迅速な除雪
が最優先であり、対象
世帯の除雪のタイミン
グがかなり遅れざるを
得ない。
③町が社会福祉協議
会とタイアップでボラ
ンティア募集に取り組
んだとしても、迅速に
実現という点では厳し



近年は降雪量が多く、除
雪作業は高齡者にとって
大変な負担となっている

い面がある。
④地域おこし協力隊
の制度的な部分を改め
て確認する必要がある
が、新しい提案として
受け止め、どの様な形
が考えられるか検討し
たい。
町としても単に行政
が丸抱えしていく事は
難しいが、関係各課と
連携しながら今後も高
齡者等の安心安全な生
活確保に向け、引き続
き取り組んでいきたい。



橋本維応議員

問 太陽光発電、省エネ 設備設置に支援を

答 国・道の対応を注視

問 橋本 議員

地球温暖化の原因とされる二酸化炭素の排出を抑える「脱炭素社会」への転換が急務とされ、太陽光で作った電気を自らが消費する「エネルギー自給自足の時代」が到来すると

言われている。

そこで、

①太陽光発電設備の設置(蓄電池を含む)に対し補助できないか。

②高い省エネ性能を持つ家庭用蓄電池「エネファーム」や給湯器など、省エネルギー設備の設置にも補助できないか。

答 建設水道課長

①平均的な一般家庭で太陽光発電を設置する場合、現在では技術の向上等により10年前の約半額で設置可能となっている。

また、国の固定価格買取制度では、発電した電力を売ることにより10年程度で初期費用を回収できるようになっています。現時点では補助は考えていない。

②現在、町では町内業者が行う100万円以上の住宅の新築・改修又は、建築設備工事に係る費用の一部に助

成しており、給湯設備も省エネである無しに関わらず、既に助成の対象としている。

しかし、国は新築戸建て住宅の6割に太陽光発電設置を掲げ、2025年からは全ての新築物件に対し省エネ基準の適応を義務づけるなど、省エネに対する取り組みが強化されるものと思われる。

今後の国や道の動向を注視しながら、支援内容が把握できた段階で補助対象の拡大を検討していきたい。



住宅太陽光発電は災害時にも非常用電源として有効

問 橋本 議員

問 介護現場の人材確保を

答 支援制度の周知や 情報収集に努める

全国的に福祉を担う人材確保が困難になってきている。

介護現場は、離職率が高く、解決には「地域福祉」体制の確立が欠かせない。

①当町の奨学資金貸付制度のほかに、介護福祉学校入学希望者への支援拡大は。

の支援拡大は。

②他町が栗山町と介護福祉学校進学に向けた包括連携協定を締結しているが、当町も同協定を締結し、条件付きで支援できないか。

③出産等で離職している方の復職にも支援できないか。

答 保健福祉課長

①現在、条例に基づき介護福祉士を目指す方への貸付を行っており、一定期間当町で就業した場合、その返済を免除している。

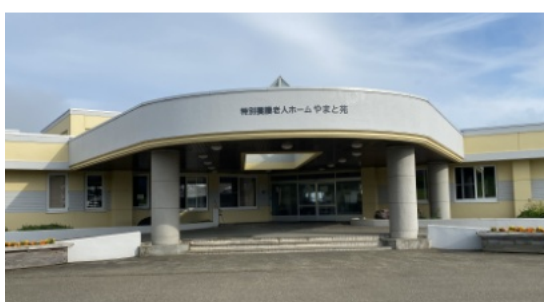
また、北海道社会福祉協議会が実施している「介護福祉士等修学資金貸付事業」もあり、月額貸付に加え養成学校への入学準備金や就職準備金もあり、同様に返済免除もある。

町は、高校等に制度の周知を図るなど、介護業界に興味を持つ生徒の就学に向けて取組を進めていく。

②すでに協定を結んでいる他町の情報収集に努め、他の養成学校も含め検討したい。

③復職支援には、北海道社会福祉協議会の一時金貸付事業があり、一定期間の従事事で返済が免除される。

当町における支援は、対象者の把握などを行い検討したい。



介護人材を募集している「特別養護老人ホームやまと苑」



大坂庄吉議員

豊似湖までの道路整備を 環境省や道と慎重に協議

問 大坂 議員

豊似湖は原生林の中にあるハート形の湖として広く知られるようになった。湖までの道路は部分的に補修はされているものの、路面のくぼみも多く、車高の低い車での走行は危



環境を保全しつつ、安全のための道路整備が求められる豊似湖までの道路

険である。国立公園に指定されると訪れる車も増加し、安全性を考えると道路整備は急務である。町は豊似湖までの道路整備にどのような考えを持っているか。

答 産業振興課長

豊似湖までの道路は、「目黒墓地から幹線林道えりも線分岐」部分をえりも町が、「同分岐から豊似湖」部分を北海道が管理している。「猿留川ふ化場から豊似湖」部分については、経年劣化により一部簡易舗装されているが、経年劣化により

現在ほぼ未舗装の状態である。現状、普通車でも豊似湖駐車場までは行けるが、走行には注意が必要であるとの認識でいる。訪れる観光客の安全を考えると道路整備は必要と考えるが、北海道管理部分は、以前より希少動物保護の観点から舗装は難しいと聞いており、慎重に進める必要がある。

問 大坂 議員

えりも中学校 グラウンド改修は 環境改善のため 大規模改修

中学校グラウンドの改修は、先日の全員協議会で説明を受けたが再確認したい。
①天然芝の張替えに5千万円超が計上されているが、グラウンド全体を張り替えるのか。
②管内中学校のグラウンドの状況は。
③改修は土の入れ替えと芝の補修のみで良いと思うが。
④現状どおりサッカー

答 教育長

ゴールは1個で対応できないか。グラウンドの年間使用時数は。
⑤フェンスは現状の3mで対応できないのか。フェンス越えは年間何回あったのか。
①当町は風が強く、グラウンドの土が飛散するため、100m走路と300mトラック、走り幅跳び以外はすべて天然芝に張り替える。
②管内の中学校はすべて土のグラウンドで、多くは陸上トラックとサッカー用敷地が併設されているが、当中学校は陸上トラック内にサッカー用敷地がある。
③現在のグラウンドは、凸凹が大きく、水はけが悪い。さらに芝はコケに近い雑草



1億円弱の規模で大改修されるえりも中学校グラウンド

が生えているため、全面的な土の入れ替えと芝の張り替えが必要との診断を受けている。
④えりも小側のグラウンドの凹凸が激しく、部活動では1ゴールの使用だが、基本は両ゴールの設置が望ましい。授業でのグラウンド年間使用時数は各学年34時間でほぼ年間通して活用されている。
⑤フェンスを越えたのは年2〜3回だが、安全策をとって5mに改修する。



高松亮裕議員

問 昆布おかまわり 不足の解消を

答 今年度中にアンケート

問 高松 議員

年を追うごとに、人口減少、少子高齢化により「おかまわり不足」の声が大きくなっているように思われる。ここに、2年、複数

の議員からおかまわり不足解消のための意見が出されているが、町は状況を把握するためにアンケート調査を行ったのか。

また漁協は、おかまわり不足の状況をどの程度把握しているか。もし、アンケート調査を行っていないのであれば、ぜひ今年中に調査を行い、来年の昆布漁に合うよう対策を講じてほしい。

答 産業振興課長

漁協も詳細までは把握し切れていないとのことであり、協議のうえ年度内にアンケート調査を行い、実態を把握する。その上で、来年度に向け町内の労働力に対応できるのか、できないのであれば、どのような方法

再 高松 議員

が考えられるのか、漁協と協議・検討していきたい。

新規に就業する方に支援を打ち出しながら、一方で、おかまわりがないから昆布採りを廃業するという方が出ている、全くの片手落ちになってしまふ。そういう方が出ないうちに、一刻も早く対策を考えてほしい。



昆布漁2日目、近浦地区の浜いっぱいの昆布だが高齢化の波は確実に押し寄せている

問 真ツブの赤潮被害調査 と今後の取り組みは

答 道と協力し 増養殖手法の確立に努める

問 高松 議員

3月から始まった真ツブ漁は壊滅的な状況であると聞いています。深い海域にいる真ツブがどのような状況にあるのかわからないことも多く、資源が順調に回復していくのか不安が残る。

答 産業振興課長

①赤潮被害の調査結果は。
②今後の取り組みは。

①北海道が行った漁場の海底調査は終了したが、赤潮被害前の海底を調査した知見がないため、解析には時間がかかると思われる。
②北海道が先日発表した「北海道太平洋沿岸赤潮被害対策に関するロードマップ(案)」で、ツブについては生態解明と増養殖手法の開発を検討するとのことである。

当町で受精、産卵、稚貝に至るまで成功していることは、道側に伝えており、要請があれば積極的に関わっていききたい。

再 高松 議員

赤潮被害がなくても2007〜2019年までの12年間で、えり

も海域の真ツブの漁獲量は、600トンから200トン未満まで急速に減少している。

これまでよりも規制を強化して、育てる漁業へもう一段階、舵を切る必要があるのでは。

答 産業振興課長

産卵前の個体は採らないなどの対策をしなければ資源は増えていかなないと考え、関係機関と協議していきたい。



左側が真ツブの卵塊。1年ほどで3〜5ミリの稚貝となる。稚貝を効率的に大きく育てる餌の研究や海への放流時期の検討が必要

7月6日：全道議員研修 札幌市

「全道議員研修」

今回の全道研修は「参院選最終情勢分析と選挙後の政局展望」という内容で、講師は政治ジャーナリストの泉宏氏。

講習内容は、元政治記者ということもあって選挙、政局の裏話など、興味深いものがあった。

同氏は、各歴代の首相や主要官庁の幹部とも交流があり、今後の世界における日本の在り方などを聞き、大変勉強になった。

コロナ禍で3年ぶりの全道研修となったが、今後の活動に活かしていきたい。

コロナ禍のため短縮されて行われた議員研修



7月7日：行政視察 千歳市

「防災学習交流センター：そなえーる」

防災学習交流センター「そなえーる」は、災害を「学ぶ」「体験する」「備える」をテーマに、災害の疑似体験や防災学習を通じて、防災に対する意識を高めてもらうことを目的に、起震装置、煙避難装置、予防実験装置、避難器具などを備えた施設。

他に広さ約2.4haの防災訓練広場、ロープ訓練塔、防災備蓄倉庫を兼ねた副訓練塔、常設ヘリポート、駐車場などを完備している。

「施設内体験」

地震体験コーナー、煙避難体験コーナー、火災予防実験コーナーを初めて体験。

当町でも千島海溝周辺地震や津波の発生が予想されることから、より一層の防災意識を高めるとともに、今後の災害予防に活かせるようにしたい。

震度7の地震体験は激しい揺れで立っているのが困難



町村議会議長会自治功労者表彰

6月22日、6月定例会の議場において、町村議会議長会自治功労者表彰の伝達式が行われました。

表彰を受けた議員は次の4名です。

- ・25年表彰 渡部 泰 議員
- 成田 一人 議員
- 石川 昭彦 議員
- ・15年表彰 大坂 庄吉 議員



表彰を受けた（左から）成田議員、石川議員、渡部議員、大坂議員

えりも町森林・林業活性化推進議員連盟植樹事業

6月23日、えりも町森林・林業活性化推進議員連盟が旧肉牛牧場で植樹を行いました。

クワやスコップで急斜面に穴を掘り、ハンノキの苗木約30本を植樹しました。

各議員のネームプレートをつけて植樹



7月5日：行政視察 浜中町

「浜中町におけるウニ生産の現状」

ウニ漁業は、海へ種苗を直接放流する「潜水漁業」と、カゴに種苗を入れ餌を与えながら育てる「養殖漁業」があり、令和2年の生産量と販売高は、潜水漁業で82.4 t、1億8100万円、養殖漁業で70.8 t、4億1300万円で、漁業者のほとんどは他漁業との兼業である。

○養殖を始めた経緯

昭和30年代から潜水によるウニ漁が行われてきたが、昭和50年代をピークに漁獲量が激減した。昭和63年から資源回復のためウニ人工種苗放流を実施していたが、平成2年には休漁に追い込まれるほど資源が枯渇した。このような状況であったが、火散布沼での人工種苗の中間育成の結果が良好で、出荷サイズまでの成長が見込めることから、平成4年、養殖事業に着手した。

－質 疑－

Q：漁獲までの流れは？

A：養殖は成長段階に合わせ網の目を大きくし2～3年で出荷、潜水は種苗放流後4～5年で漁獲している。現在、販売時の大きさは4 cm以上だが、買取業者からは3.5cmの要望がある。養殖ウニは高品質が認知され1 kg当り6,000円にもなる。

Q：種苗の購入は？

A：浜中の施設で300万粒を計画、他に知内町、泊村、羅臼町、別海町、厚岸町からも購入しており、購入先を複数とすることでリスク分散をしている。

Q：餌となる昆布は1年中調達できるのか？

A：1～3月の冬期間、ウニは運動能力が低下し、餌は与えていないため調達する必要がない。

Q：ウニ漁業者の収入は？

A：漁業者1名当り、潜水漁業で400～500万円、養殖漁業は、散布地区で500～1300万円、浜中地区で180～900万円の水準である。



浜中町役場で、担当課から説明を受ける

「浜中町ウニ種苗生産センター」

浜中町ウニ種苗センターは、総面積3,617㎡、総工費7億9585万円で建築され、令和3年3月から供用開始、種苗サイズ5ミリ以上に成長するように育成。300万粒の生産能力がある。3基のポンプを備え（うち2基を稼働）、1次・2次・精密ろ過により、きれいな海水を各水槽に送水し、災害による停電対策のため自家発電設備を備えている。

種苗の出荷は10月～11月で、施設は、職員2名・パート2名で運営し、管理費は年間約2700万円で、ウニ漁業者による運営委員会が全て負担している。



ウニ種苗は水槽内の波板で飼育され、5ミリ以上のサイズで出荷される

「生コンブ出荷事業」

昆布漁着業者の減少の要因の一つとして「陸仕事」の人手不足が挙げられるため、乾燥や選葉などの作業を簡略化できればとの発想で、2020年から試験的に実施している。

方法は、漁業者は今までどおり採取し、根を切ってそのまま出荷、加工場で細断機に投入し、数kg単位で冷凍保存する。単価は1 kg当り100円である。

◎事業効果や問題点

- ・出荷が10時頃に終わるため、他漁業と兼業ができる。
- ・歩留まりや作業効率など、加工現場で採算がとれていないようである。
- ・長昆布でしか出荷できない。

所管事務調査

総務文教常任委員会	委員長	成田一人	
副委員長	笹谷廣喜	委員	橋本維応
神田 修	上野陽司		
産業民生常任委員会	委員長	高松亮裕	
副委員長	渡部 泰	委員	大坂庄吉
竹内孝文	中野公浩		
議長	石川昭彦		

調査日 令和4年5月18日(水)

町道「高校通り線」改良計画

道内最大級の津波に備え、避難施設であるえりも高校に役場機能の一部を移管する計画がある。同校への車両でのアクセスは歌別側からの町道しかないため、本町方面からの避難に対応した町道「高校通り線」の整備が決まった。

施工延長は400メートル、事業費は3億円。
完成イメージは、現行の歌別側の道路と同じ。



本年度から令和6年度までに整備される予定の「高校通り線」

町営野球場付近で説明を受ける

議員の視点

- ・高齢者でも上がりやすい緩やかな勾配を。
- ・校門前の合流地点は、一時停止など事故防止の対応が必要。
- ・生徒の往来もあり、注意して作業を。

えりも岬水産物荷さばき施設整備事業

昭和57年に建設された当施設は、老朽化が著しく、新たな荷さばき施設を建設することになった。

新たな施設は現在よりも広く、貯氷砕氷施設が新設され、活魚水槽も2つ入ることによって高品質な活魚出荷ができ、高値が期待できる。



来年の定置網漁が始まる前に完成が予定されている

現施設内にて説明を受ける

議員の視点

- ・施設完成までの間、荷揚げされた水産物を東洋漁港に運ぶ際、交通事故に注意を。

漁業・農業担い手支援事業

令和3年度の実績は、漁業が2件、農業が1件で、いずれも新規就業者の施設整備事業に該当するものであった。

本年度見込は、漁業で2件の相談があり、6月にコンブの漁業権新規取得が決定すれば、さらに増える可能性があるとのこと。

議員の視点

- ・多くの町で従事者の高齢化

や担い手不足の問題を抱えているが、当町の漁業・農業を支える一つの手段として、今後も制度を継続してほしい。

全員協議会

※紙面の都合により抜粋して掲載

旧東洋小学校の跡利用の公募経過

旧東洋小学校の跡利用について、昨年9月以来、検討委員会を立ち上げ協議を重ねてきた。

東洋地区からは「校長室及び会議室については使用希望があれば使用させてほしい」「避難所、避難経路を整備してほしい」「部活動の合宿所等に使えるのでは」の意見があった。

検討委員会からは「高齢者向けの福祉施設」「国立公園化に向けた観光施設」「水産物の加工施設」「芸術家の招へい」「民間への譲渡」「生涯学習施設」等の意見が出され、運営形態や改装の規模、通年利用か季節利用か等を検討してきた。

また、「みんなの廃校プロジェクト」などを利用しながら全国に広く公募しているが、今のところ応募はない。

町民からは1件の問い合わせがあったが、申請などの具体的な動きはなく、6月末のホームページの申請期限を延長することも考えている。

このことから、現時点において旧東洋小学校の跡利用について、利用案を示す段階には至っていない。



少子化により全国的に廃校は増加している

物価上昇に係る事業者等支援事業

ウクライナ侵攻に端を発した世界的な原油高騰に対応するため、1次産業事業者と商工事業者に対し支援する。

・支援内容

- ① 農業者に対する支援 10万円
- ② 林業事業者に対する支援 10万円
- ③ 漁業者に対する支援
 - ア: 昆布採取業者 3万円
 - イ: 沿岸漁業操業者 3万円
 - ウ: 沖合漁業操業者 10万円
 - ※アイウは、重複受給可能
- ④ 商工事業者に対する支援
 - ア: 小売業、卸売業、サービス業、食品以外の製造業 3万円
 - イ: 建設業、個人の食品製造業、飲食業 5万円
 - ウ: 食品製造業、宿泊業、運送業、医療業、社会福祉・介護事業 10万円
 - ※アイウは、重複受給可能



当町はこれから昆布漁が最盛期を迎えるため燃油購入支援はうれしいところ

〈議員の意見〉

先日（6月8日）全員協議会が開催されたが、この案件はその時に間に合わなかったのか。今日（6月22日）議会を前にして、短時間で審議をというのは腑に落ちない。

町：制度を構築するのに時間を要した。当日提案という形をとったが、今後、このようなことの無いよう気を付けたい。

この人に聞く

地域おこし協力隊

画家

むねた

宗田 光一さん (67歳)

こういち



▼前任は福井県越前市の地域おこし協力隊でした

越前市を舞台にした創作絵本「めおと鬼」と「風の琴姫」の2冊を出版し、日刊県民福井新聞に「福井こころ旅」と題して絵とエッセイを54回、毎週連載していました。

▼えりも町地域おこし協力隊に応募した理由は

ふるさと北海道にアトリエをつくり、生涯、芸術活動を続けたいという意識が芽生え、映画製作の流れを学ぶことで、今後の自身身の創作に生かしたいと思ったからです。

- 1954年 十勝管内池田町生まれ 釧路江南高卒
- 1990年 現代美術家(故)松澤有に師事、観念美術を学ぶ
- 1992年～美術家・画家・絵本作家として個展を30回以上開く
- 2019年～越前市地域おこし協力隊
- 2022年～えりも町地域おこし協力隊

▼画家・作家以外の趣味は

変わった趣味が数学の研究で、様々な地域の人と一緒に、「数学を学ぶ大人のための「数学クラブ」を開催しています。また、「数学好き

議会の動き

5月18日	二常任委員会合同 所管事務調査
5月25日	第1回臨時会
6月 8日	全員協議会
6月13日	議会運営委員会
6月14日	えりもワクワク森林づくり 植樹祭
6月16日	札幌えりも会
6月22日	全員協議会 第2回定例会 広報広聴常任委員会
6月23日	えりも町林活議連植樹
6月25日	日高東部3町議会議員・ 理事者親睦スポーツ大会
6月26日	日高東部消防技能訓練大会
7月5日 ～7日	道内視察研修 全道議員研修会
7月22日	第3回臨時会

に「変身」という中高生向けの著書もあります。

▼現在の活動と今後は

「えりも町レポート」と称して、町内の各所、活動する人々に焦点を合わせ動画取材をしています。検索してみてください。

今後は、灯台まつり等で壁画を展示したり、映画のCMを独自に制作しSNSで発信することで町民の意識と気運を盛り上げたい。

また、映画の実現をきっかけに町民の手による自主製作映画を作り、映画の町として売り出したい。

▼えりも町民へ一言

人口減少で住民が自信を失っている地域が多いと感じています。まちをつくるのはそこに住む人です。地域の素晴らしさを再認識して自信を持ち、えりも町の良さをたくさんの人に知ってもらおう。その情熱と意気込みを皆さんに取り戻してほしいです。(取材 高松)



「めおと鬼」は、親を亡くした子どもを育てる鬼の夫婦の物語

編集後記

コロナ感染症は収束に向かうものと思っていたら、逆に増えてきました。そんな中、各地で3年ぶりのイベントが開催されるようになってきました。

当町も一日限定で酒類提供無しの灯台まつりが8月14日に実施されます。

商工青年部主体の奉仕活動によって、真っ白に化粧直しされた幌泉燈台記念塔のもとで行われる花火大会が、好天に恵まれ夜空に大輪を咲かせてくれるものとなるから願います。

恒例のコンブ採り漁も解禁となり、家族総出のコンブ作業で活気に溢れます。良質のコンブが大漁となりますよう祈りながら微力のお手伝いを。(神田)

広報広聴常任

- 委員長 橋本 維広
副委員長 高松 亮裕
委員 竹内 孝文
委員 神田 修
委員 上野 陽司